



施工手順書⑪-1

ソリスト(Soloist)

ローリング戸

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事

①-1.木工事・標準仕様 / ①-2.木工事・準耐火仕様

②クロス・塗り壁工事

③扉・金物の取付

③-1. 片開き戸、親子戸

③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)

③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)

③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④～⑩)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、物入4枚・6枚開き戸

④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊) ⑤-2. 片開き戸

⑥ヴェトロ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 片開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)・2枚引違い戸・引分け戸

⑩ファイブクイーンズ

⑩-1. スイング戸

⑪ソリスト

⑪-1. ローリング戸



施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認ください。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

ソリスト

施工手順書2023/8改訂

● 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具		
部材	数量	備考
開き戸	1枚	

ピボットヒンジ取付用穴加工済

ピボットヒンジ取付用穴加工済

同 梱 品				

建具金物箱			注1 STEALTHPIVOT NL SET (ステルスピボットNLセット)			
部材	数量	備考	ステルスピボット			
金物箱	10セットに付1箱		1mmスペーサー			
邸別段ボール箱			1.5mmスペーサー			
ソリスト専用金物箱			ステルスピボットカバー			
STEALTHPIVOT I			インサート			
			トルクスビット			
			アンカー			
			注2			
			床・天井取付ビス			
			扉側取付ビス			
			非使用品			
			ワッシャー			
			いもねじ			
			注1 ACCESSORIES SET (アクセサリセット)			
			マグネットホルダー			
			非使用品			
			マグネット			
			マグネットホルダー取付ビス			
			※グレーに塗りつぶした部品は使用しません。			
			注1 INSTALLATION TOOL (インスレーションツール)			
			ピボットヒンジ位置だし治具			
注1: ソリスト専用金物箱の中に一緒に入っています						
注2: 床・天井が木下地の場合は使用しません						

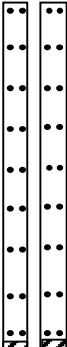
□ ソリスト

ソリスト

施工手順書2023/1初版

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

下地枠			同	ダンドリビス ※準耐火納まりの場合 コーススレットビス  1セット					
部材	数量	備考		H24	28本				
縦枠下地	2本		梱	施工手順書 					
				品					

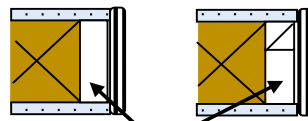
開口部の確認

forステルス枠

施工手順書2023/1初版

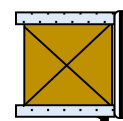
開口部(躯体側木下地)の確認

下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか確認をしてください。



隙間がある

縦枠
下地



隙間なく平滑

縦枠
下地

縦枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。

×

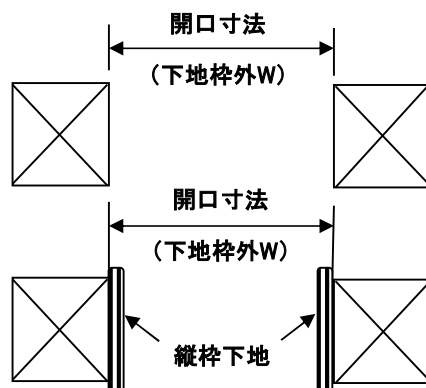
○

ポイント

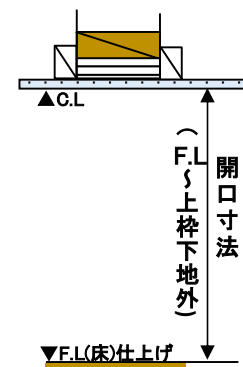
※躯体側の木下地（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。

開口部(寸法)の確認

下地枠を取り付ける前に、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。



【巾寸法】
開口寸法（＝下地枠外W）



高さ寸法の確認

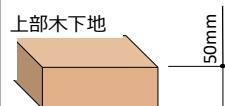
ポイント

※開口寸法は邸別の納まり図でご確認ください。

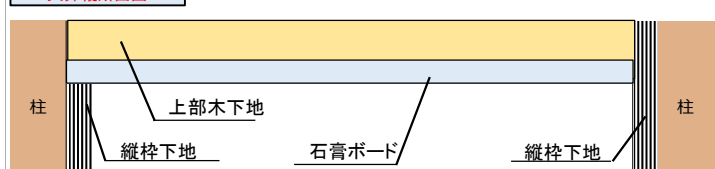
※納まり図の高さ寸法はF.L(床仕上げ面)からの寸法となっているので注意してください。

木下地の取付け

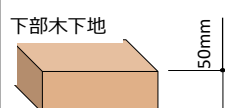
- ① 天井に上部ピボットヒンジを取付けるため、厚み50mmの上部木下地を取付けてください。



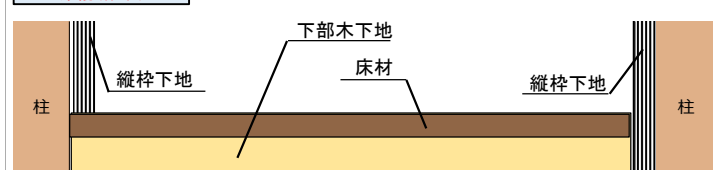
天井縦断面図



- ② 【吊元側サイドガラス付きの場合】
床に下部ピボットヒンジを取付ける為、厚み50mmの下部木下地を取付けてください。



床縦断面図



注意

※木下地は必ず厚み50mm以上にしてください。

縦枠下地の取付・固定

木工事

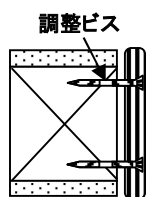
縦枠下地を壁厚(柱)の中央にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。

※クロス・塗り壁で仕上げますのでビス頭の飛び出しは厳禁です。

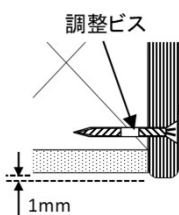
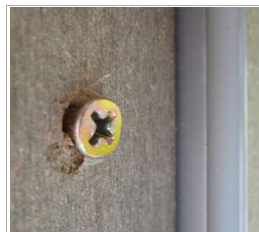
取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスに同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。

※柱と縦枠下地のクリアランスは2mmが標準設定です。

取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン(現場手配品)を接着剤併用(表裏塗布)にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。



調整ビスにより枠を固定

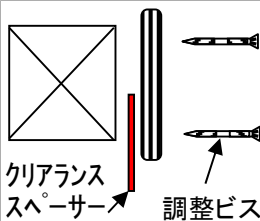
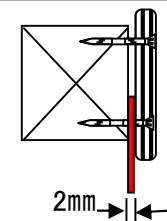

縦枠下地の見込寸法は
壁厚+1mmずつのチリ


調整ビス頭の飛び出し

×



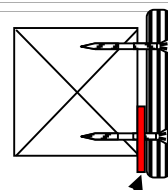
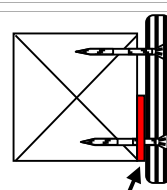
○


クリアランス
スペーサーを挟む


2mmのクリアランスを保ち調整ビスで取付



パッキン材

縦枠下地の下部裏側に
2mm厚パッキン材取付済

柱面からクサビ等が
飛び出している

柱面からクサビ等が
飛び出していない

クサビ又はパッキンに接着剤を塗布し縦枠下地と柱を
ガッチリ固定(クロス・塗り壁のヒビ割れ防止策)

×

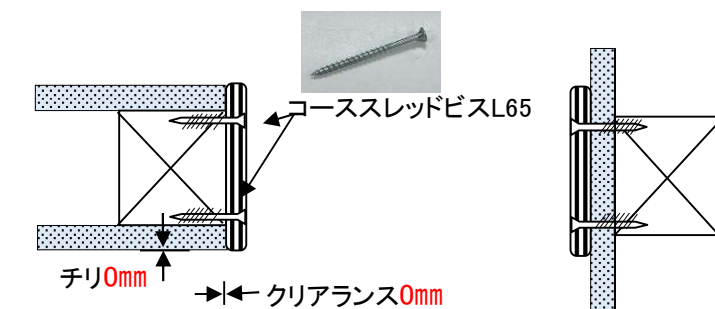
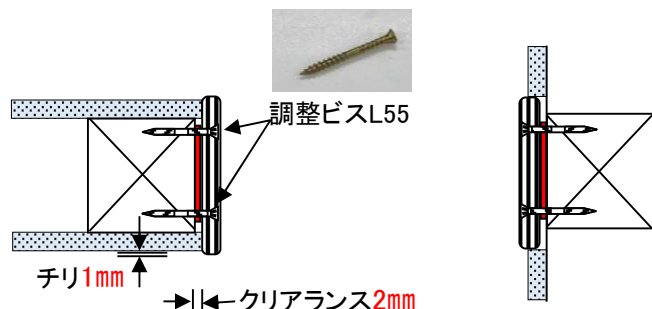
○

- ボイ** ※標準仕様の縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材がついてますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
- ン** ※クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
- ト** ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が効かなくなりますので、その際は別の所で再度、固定してください。
- ※ウォールスルーが並列する場合など、取合により調整ビスが貫通してしまう恐れがある場合は、別途ビス(現場手配品)で取付けてください。
- ※クサビ・パッキンの差込みは、ビスとビスの間にに入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
- ※クサビ・パッキンが柱面から飛び出していると、石膏ボードの取付ができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。

注 「標準仕様・壁石膏ボード12.5mm」と「準耐火仕様・壁石膏ボード厚15mm」との違い

【標準仕様】入隅部は壁石膏ボード負け

【準耐火仕様】入隅部は壁石膏ボード勝ち



【注意事項】

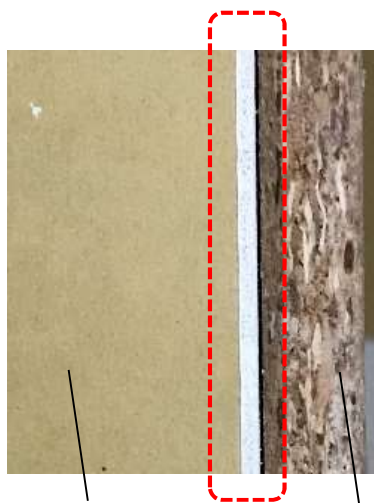
準耐火仕様の場合、縦枠下地の下部裏側の2mmパッキンは取付きませんので、縦枠下地の裏面に接着剤を塗布し、コーススレッドビスで柱と固定する。

石膏ボードの取付け時の注意点

枠に突き付ける石膏ボードは面をとり、枠との間に隙間が出ないように石膏ボードを取付けてください。

【注意事項】

クロスや塗り壁の仕上がりに影響がでる恐れがありますので必ず守ってください。



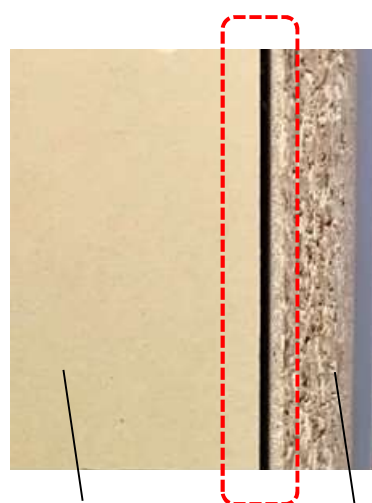
石膏ボード

下地枠

枠と石膏ボードの
隙間無し



石膏ボードの
面取有り



石膏ボード

下地枠

枠と石膏ボードの
隙間有り



石膏ボードの
面取無し



シンプル幅木コーナー役物・取付け時の注意点

枠の取付・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終わったら、幅木を接着剤で縦枠下地の下部の切欠き部分にはめ込むように取付けてください。



接着剤全面塗布
(推奨：酢ビ系)

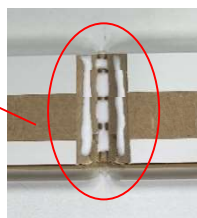


【クロス貼り仕上の場合】
切欠寸法：7×30



【塗り壁仕上の場合】
切欠寸法：4×30

下地の欠き込み部分にはめ込む様に取付



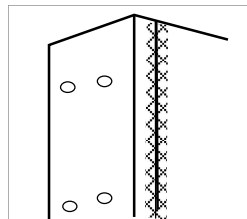
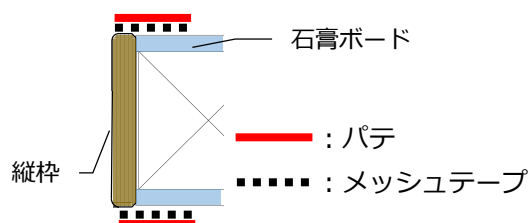
【注意事項】 幅木コーナー役物のVカット部も接着剤を塗布してください。※塗布しないと割れ易くなります。

ポイント ※出荷時には、シンプル幅木の切欠き加工がされています。
高さ30mm以上の幅木をご使用の場合は、現場で高さ方向の切り欠きを行ってください。
※厚さ7mmを超える幅木(現場手配品)には対応していません。

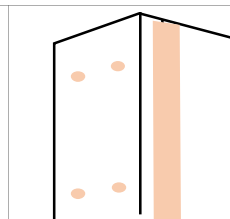
クロス施工時の注意点縦枠【袖壁納まりの場合】

仕上工事

- ① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

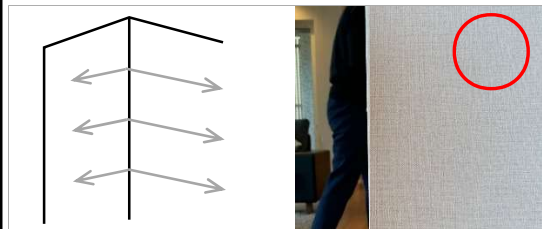


ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る

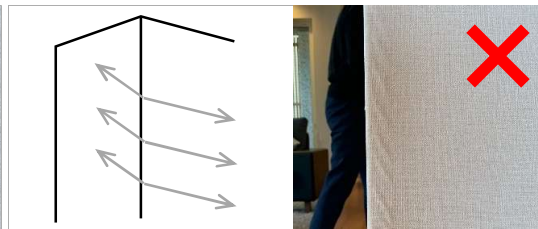


ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)

- ② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。



枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る



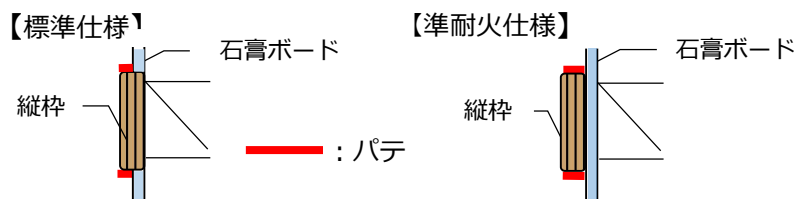
枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります

- ポイント ※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。

クロス施工時の注意点縦枠【入隅壁納まりの場合】

仕上工事

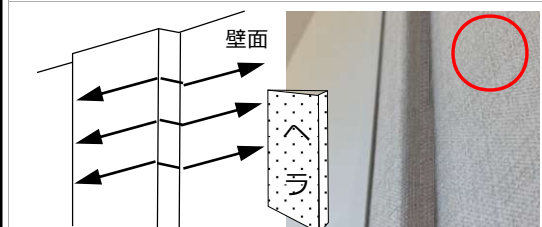
- ① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。
縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスを貼る際は縦枠の木口面をヘラ等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。



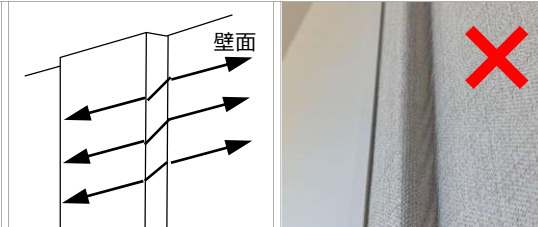
ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る

(木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る)

※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください



枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る



枠の入隅部に貼る際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼ると壁面のクロスに引っ張られ、クロスよれの原因となります

- ポイント

扉への金物の取付一覧	金物取付
①マグネットホルダーの取付 →詳細は『マグネットホルダーの取付 [扉の戸先側]』を参照	
②扉へステルスピボットの取付 →詳細は『ピボットヒンジの取付 [扉の吊元側]』参照	
③扉の吊り込み →詳細は『扉の吊り込み』参照	

①マグネットホルダーの取付 [扉の戸先側]	金物取付
扉上部木口面と天井面にマグネットホルダーを取付けるための下穴(φ3深さ30)を空けてください。	扉上部戸先側 天井面
マグネットホルダー (2ヶ) にマグネットを装着してください。 ※それぞれN極・S極が表になるようにはめてください。	
マグネット装着済みのマグネットホルダーを扉上部木口面と天井面に同梱ビス(M4.5×50)で取付けてください。取付の際は同梱のT20ビットを電動ドリルに装着して取付けてください。	扉上部戸先側 天井面

②ピボットヒンジの取付 [扉の吊元側]

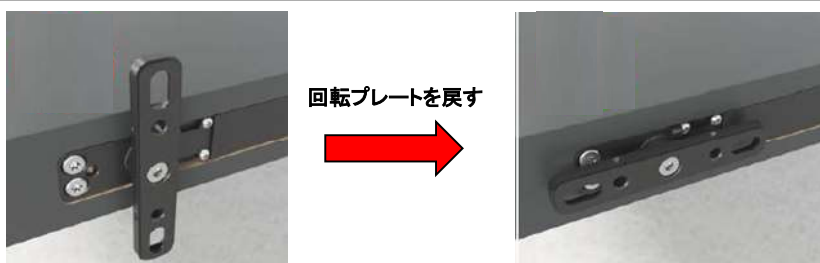
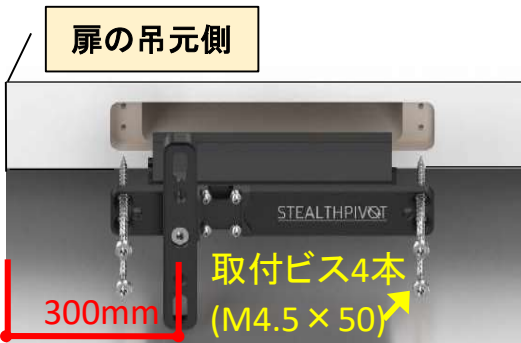
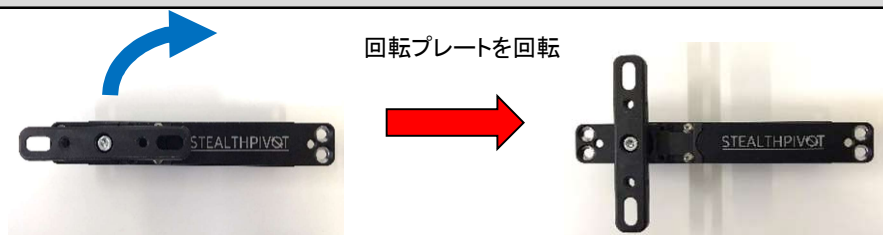
金物取付

ピボットヒンジの回転プレートを90度回転させてください。

電動ドリルに同梱のトルクスビットT20を装着し、扉の加工に合わせて同梱のビス8本(M4.5×50)で扉上下にピボットヒンジを取付けます。

※回転プレートが戸尻側(300mmの位置)になるように取付けてください。

ビスで止めたら回転プレートを元の位置に戻してください。

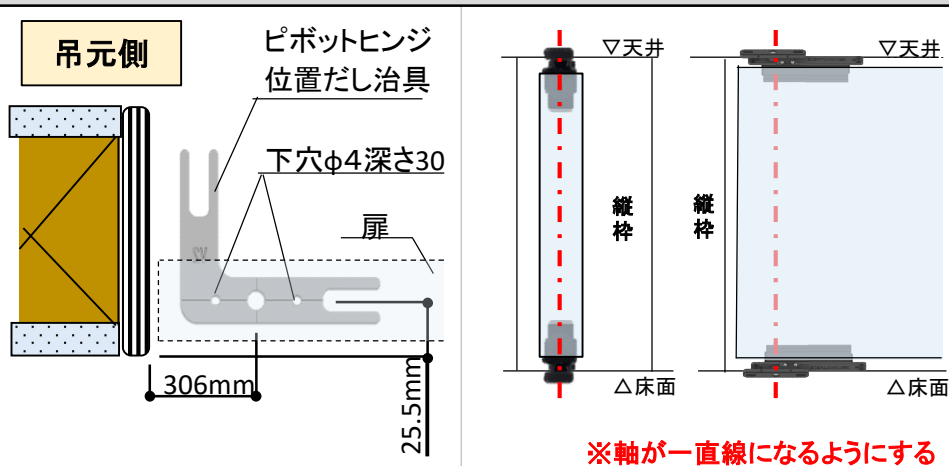


③扉の吊り込み

吊り込み

ピボットヒンジ位置だし治具を使用して、床面と天井にピボットヒンジを取付ける為の下穴(φ4深さ30)を開けてください。

※レーザー等を使用し天井と床面のピボットヒンジの軸が一直線になるように下穴を開けてください。



右図1のように吊り込み位置に扉を起こし、ピボットヒンジの中心が下穴の中心にくる位置に扉を動かしてください。

右図2のようにピボットヒンジの回転プレートが下穴の中心になるように合わせます。



図1

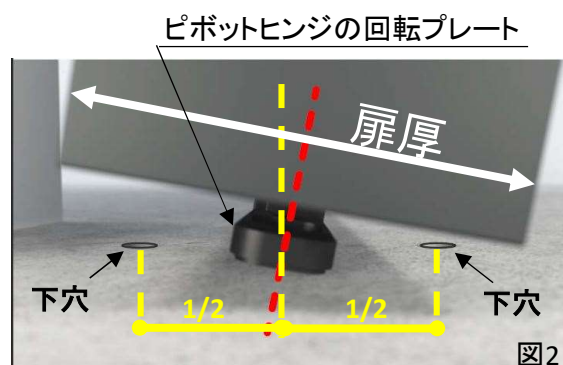


図2

下穴の中心に合わせる

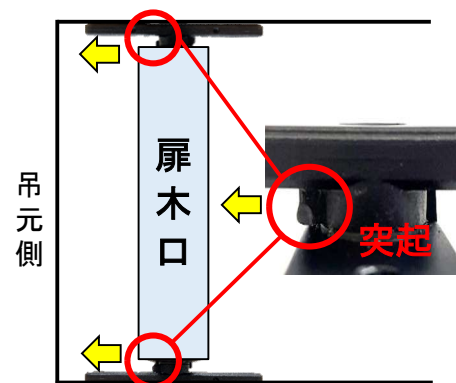
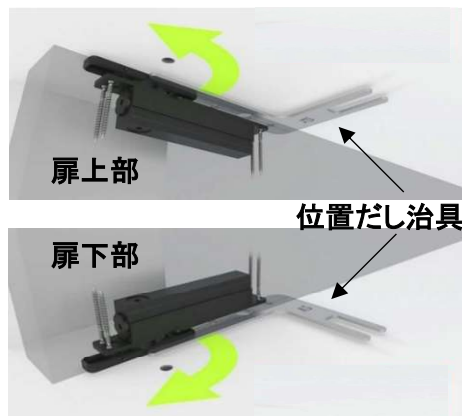
③扉の吊り込み

金物取付

上下のピボットヒンジに扉中央の方から位置だし治具を差し込み、吊元側木口に向かって回転プレートを90度回転させてください。

回転するときは同じ向きに回転するようにしてください。

※上下ピボットヒンジの軸にある突起が吊元側に向かっているか確認してください。



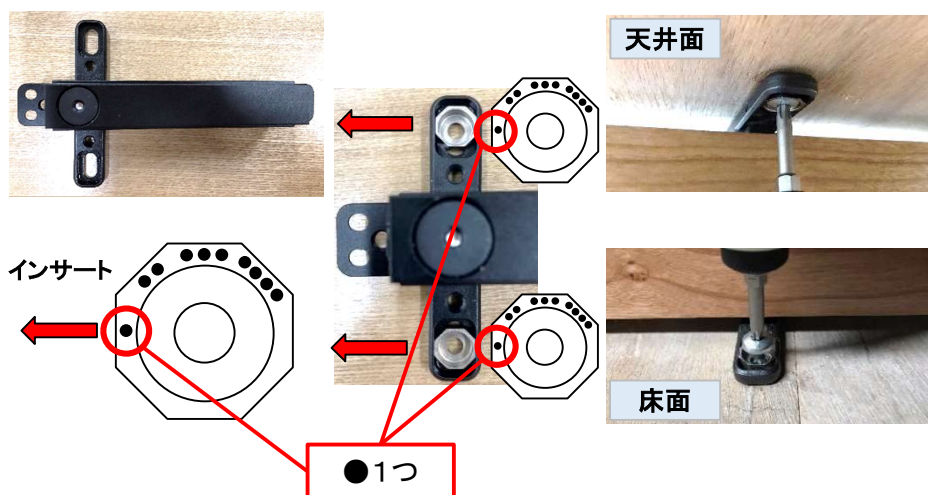
ピボットヒンジの回転プレートにインサートを取付けてください。

インサートの向きは、

【●1つ】が同じ方向（吊元側）に向くように取付けてください。

インサート取付後、電動ドリルに同梱のトルクスビットT25を装着し、下穴に合わせて同梱ビス(M6×43)で取付けます。

※インサートの向きが同じ方向を向いていないと建付調整（角度）ができません。



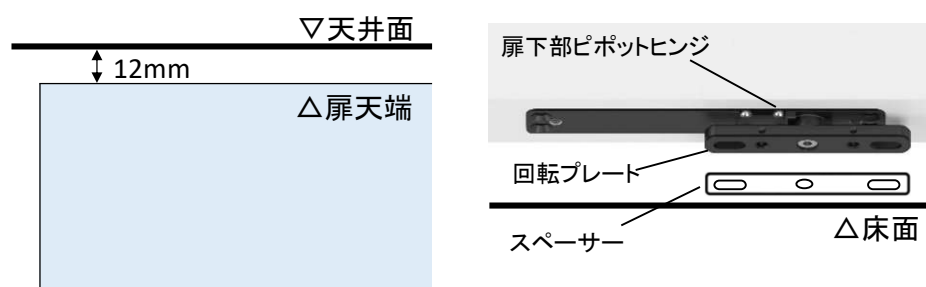
建付調整（高さ・左右）

調整

【高さ調整】

扉と天井のクリアランスが12mmより大きい場合、ビスを緩め、同梱のスペーサーを扉下部ピボットヒンジの回転プレートと床仕上げ面の間に挟み調整して下さい。

※天井と扉のクリアランスが12mm以上ある場合、マグネットが上手く動作しない場合があります。

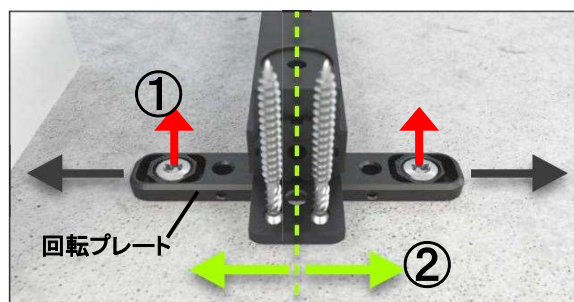


【左右調整】

床または天井に止めた回転プレートのビスを緩め、左右にスライドさせてください。

床から天井まで垂直になるように調整してください。

扉と壁のクリアランスが6mmとなるように調整してください。



【調整範囲】

左：4.5mm
右：4.5mm

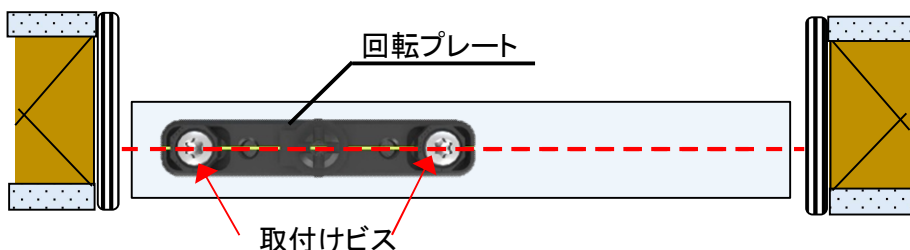
建付調整（角度）

調整

【角度調整】

床または天井に止めた回転プレートのビスを緩めてください。緩めたらインサートを回転させ扉の閉鎖位置を調整してください。

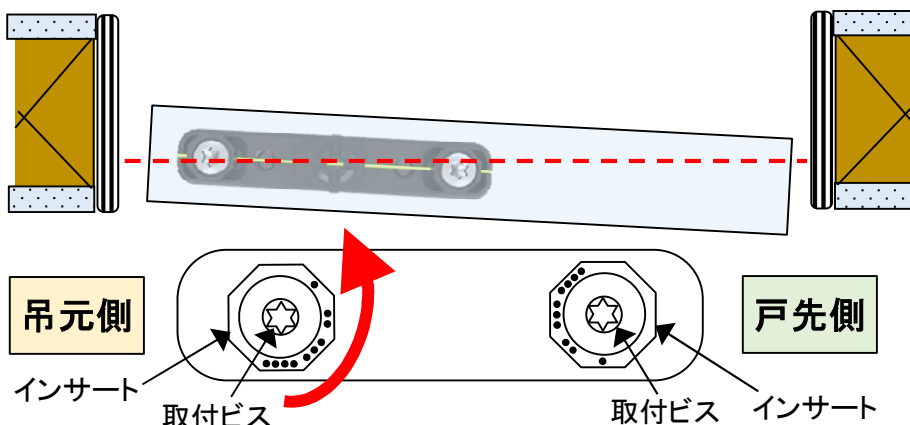
調整が完了したら回転プレートのビスを締めてください。



<パターン①>

吊元側のインサートを反時計回しに回転させてください。

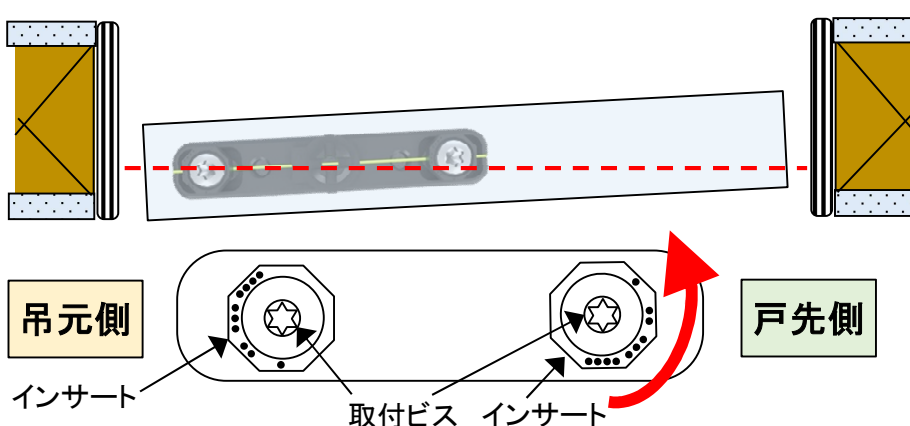
<パターン①>



<パターン②>

戸先側のインサートを反時計回しに回転させてください。

<パターン②>



ポイント

※角度調整は微量の調整になります。大きな角度での調整はできません。（1辺回す毎に0.15mm調整）

ピボットヒンジカバーの取付

ステルスピボットのカバーを左右からスライドさせて取付けてください。

